

“国書データベース”稼働のお知らせ

「日本古典籍総合目録データベース」「新日本古典籍総合データベース」を
3月1日に統合し「国書データベース」といたしました

先般お知らせしましたとおり、国文学研究資料館は「日本古典籍総合目録データベース」（館蔵和古書目録データベースを含む）・「新日本古典籍総合データベース」を統合し、新たなデータベース「国書データベース」の提供を開始しました。

英語名称：Union Catalogue Database of Japanese Texts

U R L : <https://kokusho.nijl.ac.jp>

これに伴って、「[日本古典籍総合目録データベース](#)」（館蔵和古書目録データベースを含む）と「[新日本古典籍総合データベース](#)」は、2月28日（火）に稼働を停止しました。

当面は、旧データベースのURLから国書データベースのURLへ転送されますが、登録変更をお願いします。

詳細につきましては、今後国書データベースにて広報を行ってまいりますので、ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

国文学研究資料館

管理部 学術情報課

E-mail: kokusho★nijl.ac.jp

(★は@に変換ください)

概要

主として、近代以前に日本人が著述した書籍（国書）の書誌情報と画像を集積したデータベースです。国内外の機関等が所蔵する国書の情報を検索・参照し、多くの画像を見ることができます。

日本の古典籍の総合目録である「日本古典籍総合目録データベース」と「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画（略称：歴史的典籍NW事業）」によって構築された「新日本古典籍総合データベース」を発展的に統合し、さらに機能強化を目指すものです。

収録内容

近代以前の日本の書籍を中心に、一部、漢籍・明治以降の書籍等の資料を含みます。書誌情報等メタデータは主に『国書総目録』（岩波書店刊）の継承・発展を目指して構築してきた「日本古典籍総合目録データベース」を引き継いでおり、資料の書誌・所在情報を著作（作品）典拠・著者典拠とともに提供します。

メタデータのリソースは、各機関で公刊された目録類、各機関所蔵の原本資料の画像、当館所蔵資料の3種があり、総じて国内外の機関等の所蔵する資料の書誌・所在情報を収録しています。

画像情報は「新日本古典籍総合データベース」を継承し、歴史的典籍NW事業等により、令和6年度末までに30万点の資料の原本画像の公開を目指しています。

特色

各書誌情報が著作典拠によってまとめられ、同じ作品のバリエーションを容易に比較できることが大きな特色です。書誌検索のほか、著作検索、著者検索、タグ検索等多彩な検索ができます。

画像情報は、IIIF（International Image Interoperability Framework：トリプルアイエフ）ビューワであるMiradorを採用し、他のデジタルアーカイブの画像と簡単に連携できるほか、画像がある書誌にはDOI（デジタルオブジェクト識別子）を付与し、参照の永続性を確保しています。

公開する画像のオープン化を推進しクリエイティブ・コモンズ・ライセンス(CCライセンス)の仕組みを採用しています。



<http://iiif.io/>



<https://www.doi.org/>



<https://creativecommons.jp/licenses/>

国立国会図書館、国立情報学研究所をはじめとした各機関の提供するデータベースと連携し、より利便性の高いデータベースとなっています。

今後の展開

より高度な機能の搭載に向けて、公開後も開発を進めます。